

授業科目名	地域資源の保全と活用	担当教員	中井 淳史 山室 敦嗣 矢ヶ崎 太洋			
必修の区分	選択					
単位数	2 単位					
授業の方法	講義					
開講年次	3年 第1クオーター					
講義内容	私たちをとりまく世界にはさまざまな「地域資源」がねむっている。この地域資源は、地域社会の持続的な発展において重要な役割を果たすものである。本講義では、地域資源の概要と、その発掘・保全・活用に関する基礎的な考え方を学ぶ。地域資源を見出す前提として、大地・人・自然の関係性という視点や、それらを時間軸という概念からつないでゆく考え方を学んだうえで、歴史学・社会学・地域計画学を専攻する教員が、それぞれの方法論や視座にたち、実際の地域資源の保全や活用事例について講述する。					
到達目標	本講義の到達目標は、履修者が大地・人・自然の関係性やその歴史的展開（過去・現在・未来）を理解したうえで、そこからどのような地域資源を見出し、保全・活用していくかについて、自立的な分析や知見を得るようになることである。					
授業計画	1 地域資源を考えるために：大地・人・自然の関係性と時間（中井） 2 地域の記憶と事物の価値（中井） 3 大地・人・自然を守る：史蹟名勝天然紀念物保存運動から地域資源まで（中井） 4 地域資源の開発と地域社会の変容（山室） 5 地域資源は誰のものか（山室） 6 資源利用と環境保全（山室） 7 地域資源と内発的発展（山室） 8 集落空間の構成と変遷（矢ヶ崎） 9 歴史的町並みの再生（矢ヶ崎） 10 自然災害と復興（矢ヶ崎） 11 地域資源を活かしたまちづくり（矢ヶ崎） 12 まとめ：地域資源を守り、活かす－温泉資源の歴史から－（中井）					
事前・事後学習	講義で学んだことに関する小レポートを各回に作成し、提出すること。					
テキスト	必要に応じて資料を配布する。					
参考文献	各回の内容に関わる基礎的な文献等については、講義中で指示する。					
成績評価の基準	地域資源の保全・活用のために、大地・人・自然の関係性という観点や文理融合的な考え方の重要性について十分理解できる者に対して単位を与える。講義の各回で課する小レポート（80%）および受講態度（積極的な					

	質問など) (20%) をもとに総合的に評価する
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	該当しない。
備考欄	履修者が定員を超過した場合、抽選を行う。